

福山城築城400年記念

# 福山名所コンサート

ふくやま などころ



## 第6回 松永

会場：蓮華寺 福山市今津町775

2020年4月4日（土）13：30～15：00 実施予定でしたが、新型コロナウイルスの国内における感染拡大の状況を踏まえ、無観客で実施収録し、その内容を **YouTube チャンネル「福山市」** よりインターネット配信致します。

### お話「江戸時代の松永、塩田と今津宿」

村上範雫（元日本はきもの博物館 理事）

### 能と雅楽のコンサート

大島 政允（能楽シテ方 喜多流）

大島 衣恵（能楽シテ方 喜多流）

・紙芝居「福山」

・仕舞「八島」

・仕舞「融」

三浦 元則（雅楽 箏）

村上 律（雅楽 笙）

・双調調子

・胡飲酒破

・越天楽 今様

・東遊「一歌」

・陵王

・さくら



大島 政允



大島 衣恵



三浦 元則



村上 律

主催／喜多流大島能楽堂 Tel. 084-923-2633 <http://www.noh-oshima.com>

共催／福山城築城400年記念事業実行委員会

後援／福山文化連盟 福山喜多会

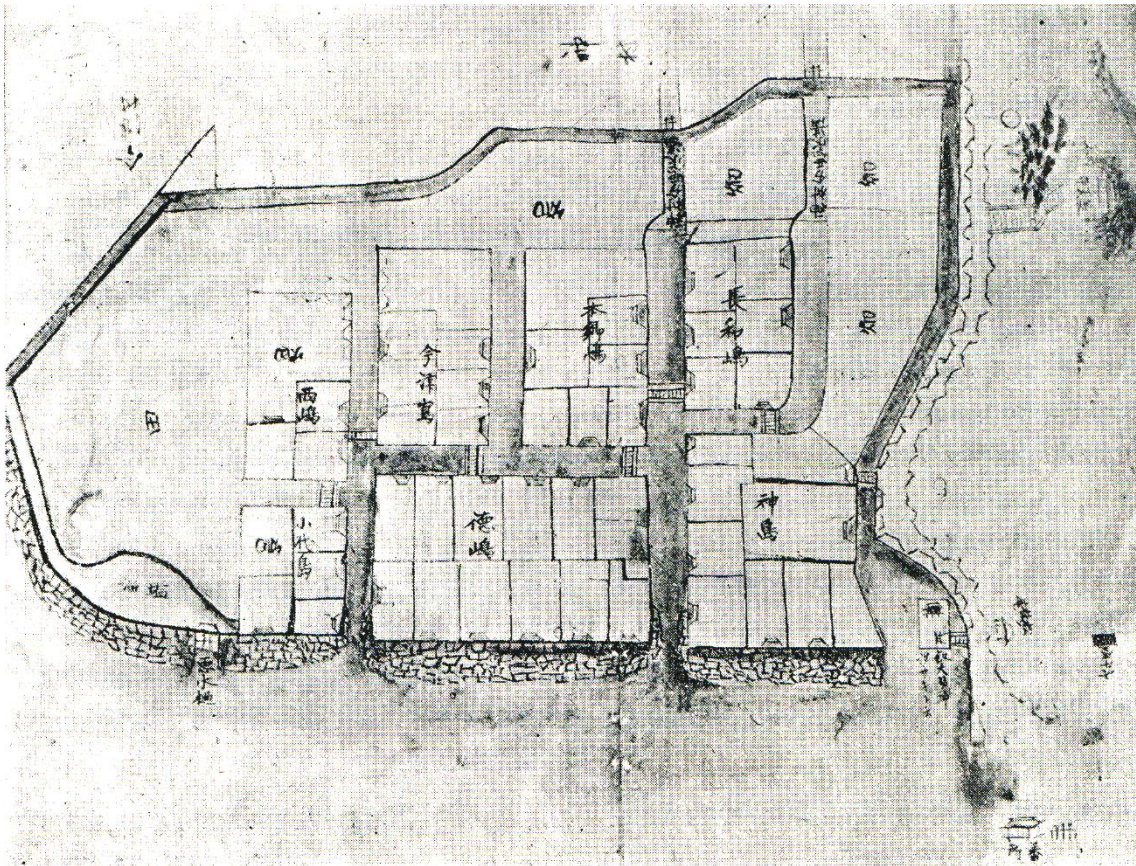


## 江戸時代の松永 塩田と今津宿

### 【水野家と本庄重政と塩田】

江戸時代、福山藩藩主水野勝貞の家臣、本庄重政が藩の殖産事業として7年間(1660～1667年)の月日を重ね、松永湾に広がる遠浅の浦、東西15町、南北10町の新涯地に7つの島に48浜の塩田を築造し、入浜塩田として栄えた。松壽永年に栄えることを願い、地産神として潮崎明神を勧請、潮崎神社を建立し、地名を「松永」と命名した。本庄重政は今も承天寺境内の丘陵に祀る墓石から松永の安寧を祈り見守っている。

菅茶山(江戸時代後期の儒学者、漢詩人)は松永湾に広がる穏やかな潮騒の音と入船出船の港、新涯に広がる入浜塩田とその様を包むように緑豊かな山々、この絶景を後の世に残す誉と称え「遺芳湾」と呼び、今も松永湾を遺芳湾と言い伝えられている。



写真資料提供…福山市松永はきもの資料館



## 【山陽道の宿場町 今津宿】

江戸時代、参勤交代の発布に伴い山陽道も整備され、松永湾（遺芳湾）岸の地に西国街道の宿駅「今津宿」が定められた。

今津宿絵図 旧幕時代今津村図



河本英三郎 画  
河本英太 蔵

河本英三郎 嘉永4年（1851）生れ。  
明治期、今津村で戸長河本幹之丞の元で助役を務めた。

### 河本家 今津本陣

今津本陣は河本家が代々勤めた。明治4年の一揆により母屋、納屋等焼失。大部分の庄屋本陣関連資料が失われたが、表門と御用蔵一棟が残った。現在、その中に残っていた古文書等の整理と解説が進められている。



今津宿本陣 河本家蔵 関札

福山市指定史跡 今津本陣跡



## 蓮華寺 今津宿脇本陣

真言宗新熊野山蓮華寺は今津本陣河本家の檀那寺であった関係から脇本陣と定められたと考えられる。

この寺は弘法大師空海上人の開山と伝えられ、阿弥陀如来〈伝 安阿弥作〉を本尊とする。宝暦3年(1753)堂塔が焼失し造営に際し福山藩藩主より多額の浄財の寄進を受けた。宝暦13年(1763)現在地に移転再興し、持仏堂・客殿・庫裏等を造営し、安永8年(1779)完成する。この時、現在の御成りの間(上段の間)も建造される。福山藩藩主水野家の家紋を寺紋としている。今も当時の御成りの間(上段の間)が現存している。

客殿 臺股に水野家の家紋(沢瀉紋)



正面玄関の水野家家紋入りの瓦は、昭和62年頃大屋根瓦の葺き替えを記念して、臺股に彫刻された紋を基に作製されたものである。

御成りの間 (上段の間)



一段高く畳四畳に書院、明り取りの間、床の間、違い棚、天袋、地板等が作られている。